

題材名「サウンド オブ ミュージック」

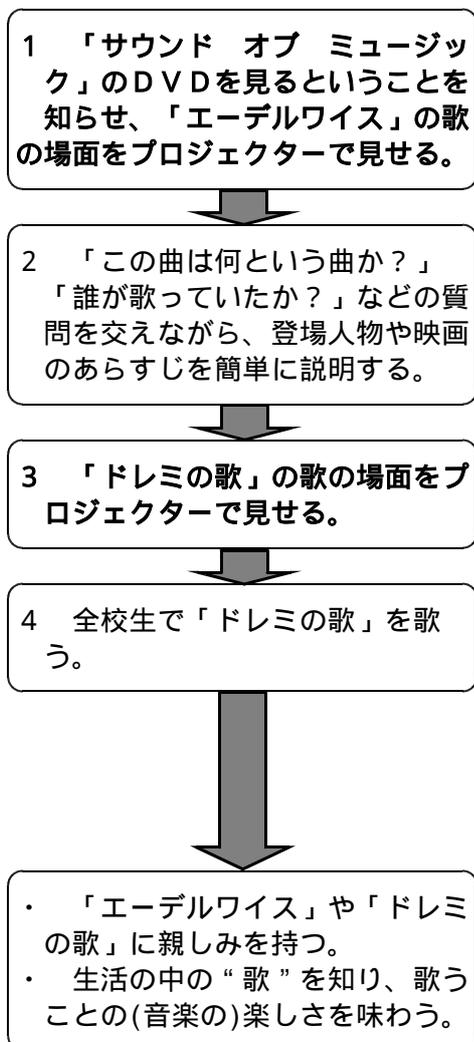
目 標

- ・ 全校生で音楽を楽しむ。
- ・ 映像を見ながら音楽にふれることで、より音楽に親しみを持つ。

コンピュータを活用する利点

映像は子どもを引きつける力がある。全校生が“6月の歌”で歌った「エーデルワイス」は映画「サウンド オブ ミュージック」の中で歌われており、また、この映画の中には子どもたちがよく知っている「ドレミの歌」も出てくる。そこで、親子で歌う「エーデルワイス」や美しいアルプスの山々を背景に歌ったり、公園や町で遊びながら歌ったりする「ドレミの歌」の映像を見せることで、教室で歌う歌とまたちがった楽しさを味わうことができると考えた。体育館でプロジェクターを使っての大きな画面は迫力があり、子どもたちの心により迫るだろうと期待し、9月の全校生による音楽集会で試みることにした。

集会（15分）の流れ



ICT活用場面

「エーデルワイス」と「ドレミの歌」が歌われている映像を左記の流れの1と3の2ヵ所に入れた。英語を使うか、日本語を使うか迷ったが、1, 2年生が字幕を追うのは難しいと考え、日本語の方を使用した。

導入においていきなり「エーデルワイス」を歌っている映像を大画面で見せることで子どもたちは「何が始まるのだろう」と興味津々の眼差しとなり、歌が始まると「あっ、この歌、知ってる！」と会場のあちこちで声が聞こえた。

「サウンド オブ ミュージック」のあらすじが分かったところで、「ドレミの歌」の映像を紹介する。子どもたちは“へえ、この歌はこの映画の中で歌われているんだ。”という表情から、次々に展開される楽しい映像に引き込まれていく感じであった。

成果と課題

映像に対する子どもたちの集中力はすごいものがある。子どもたちと一緒にプロジェクターの大画面を見ていた私だが、ふと、子どもたちの方に目をやり、300名近い子どもたちが食い入るようにして一心に画面を見ている姿に、少なからず驚かされた。短時間ではあったが、名画の感動とともに音楽の楽しさを味わうことができたと確信している。しかし、音楽の感受の基本は耳からである。映像に頼り過ぎることなく、効果的に映像を活用して音楽を楽しませたいと考える。

ICT活用環境等

使用周辺機器	プロジェクター
使用ソフト名	DVD「サウンド オブ ミュージック ～ファミリーバージョン～」
使用教室	体育館